



島袋 史

ふみ

ゆいクリニック院長
産婦人科医

前回、子どもたちへの喫

煙防止教育の大切さについてお伝えしました。科学的に解明されてきたたばこの健康被害やニコチン中毒の依存性の高さから、子どもたちの将来の喫煙を防止することはとても大切です。

すると、子どもたちから素朴な疑問として、どうしてそんなに身体に悪いたばこが売られているの？と聞かれることがあります。確かにたばこそのものを禁止することは理想的(愛煙家にとっては悪夢)ですが、既に産業として確立しているたばこを直ちになくすることはできません。国と地方併せて年間2兆円を超える税収がなくなるのも大変です。

そこで、たばこを値上げすることで、税収は確保しつつも喫煙者の減少が期待できるという試算があり、一箱千円にしようという議論している国会議員たちもいます。税収に関しては異論を唱える人もいますが、実際にたばこの値段があがる、禁煙に踏み切ろうとい

南風

たばこの値段

う人が増えることは、過去の値上げでも実証されています。現在の値段でも一箱四三〇円として一日一箱吸うと、一カ月で約一万三千元、一年で約十六万円、五年で七十八万円にもなりますが、これが一箱千円になると…すごい金額ですよね。確かに値上げをしても、その強いニコチン依存のために止められない人もいます。しかし、安易に手が出せない金額になることで、子どもが興味本位で喫煙することは減って、彼らの健康が守られることになると思います。ひいてはタバコによって引き起こされるがんや慢性肺疾患などの病気の医療費、病気による所得や労働力の減少、火災に伴う被害、清掃などの環境保全費用、喫煙時間分の労働力の損失などさまざまな社会的経済的損失も防ぐことができます。愛煙家の皆さんには耳が痛い話ですが、未来を担う子どもたちのために改善していくべきだと思います。

琉球新報 2014年9月13日

+

+

+

+